

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		高岡市きずな子ども発達支援センター（センター事業）			公表日		令和7年 2月 28日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15	0	・移動に支障がないよう、床の段差やコーナーの作り方など考慮し落ち着ける空間作りを行っている。 ・保育室、プレイルーム（遊戯室）共に、こども一人当たりの基準に見合った床面積を満たしている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	0	・基準に見合った人員配置であり、こどもを安心してみることができる。 ・フリーの保育士を配置することにより、プレイルームでの安全確保や、病気や怪我が発生した場合も対応しやすい。 ・クラスで行う課題の内容に対して人手が欲しい時に、丁寧に関わることができる。	・トイレが混み合うことがあるので、トイレに誘う際、時間帯をずらしたり職員間で声を掛け合ったりしながら工夫していく。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	14	1	・保育室には、一人一人の体格や特性に合わせ、個人椅子の設置が成されている。着席時は、必要に応じてパーテーション等を活用し、空間を区切るなどの配慮も行っている。 ・視覚支援ツール（写真やイラストを用いたカード、スケジュールボードなど）が準備されており、遊びや活動の流れが、一人一人にわかりやすく構造化されている。 ・トイレ改修をはじめ、必要に応じて設備の更新や改善を実施している。 ・教室とトイレ、プレイルームが扉一つで行き来出来るので、トイレを経由してプレイルームに行く、トイレを経由して教室に入る等こどもに無理のない動線が確保できる。	・下足の脱ぎ履きをする場所がわかりにくいので、ベンチの色を分ける、混み合わないための動線の工夫や職員間の声掛けを行う。 ・こども達のトイレの設備は個室空間の確保、環境の見直しなど配慮が必要である。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13	2	・朝礼やクラスごとの朝ミーティング時に、保育室やプレイルームの遊具、環境の設定について職員間で意見交換を行っている。こどもの姿や活動内容に応じ、柔軟に環境を再構成している。 ・こども達が落ちつける場や十分に発散できる場がある。 ・毎朝、清掃員が掃除を行っている。保育士も室内環境を整えている。その都度、汚れた場合は清掃している。 ・保育室は活動に合わせて机や棚を移動させてスペースを広げたり、パーテーションで区切ったりしてこどもたちが集中しやすい環境づくりを工夫している。	・毎朝清掃員が掃除を行い、保育士も環境を整えているが、食後など食べかすやゴミがないように床掃除を徹底する。 ・使えない玩具は廃棄しスペースを確保する。 ・週に1回、用具室等を整理する日を設けているが、行事等で行えないことがある。整頓する場に保育室やプレイルームも加え、取り組む時間を決めて計画的に行う。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14	1	・個別に配慮しながら環境を考えている。 ・一人一人にあわせて活動できる場がある。 ・国の基準を満たしている。 ・静養室が隣接され、病児の対応だけでなく、クールダウンの場として、必要に応じて利用できる。	・静養室等の活用に加え、プレイルーム等の環境を工夫することで、柔軟に個別空間を確保していく。 ・嘔吐や施設内の設備の故障など突発的な対応が必要な時は、空き部屋状況を速やかに確認し柔軟に対応していく。		
	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14	1	・毎日15:45～16:00の15分間、クラス担任でその日の療育を振り返る時間を設けて翌日に反映させている。 ・週1回、関係職員でバスの運行の振り返りを行い、改善を図っている。 ・行事後に反省会を行っている。	・職員が主体的に討議の場に参加し、より良い療育が行えるように都度PDCA サイクルを行っていく。 ・児童発達支援ガイドラインの見直しに伴い、年々業務が増えている。必要に応じて業務内容の見直しが必要である。		

業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	・保護者から寄せられた意見について、全職員に共有し、意見に対する改善案について職員間で話し合い、対応策を定めて実行につなげている。 ・行事の後は、保護者に感想や意見を出してもらい、日々の療育や以後の行事に活かしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14	1	・定期的に職員の面談を行っている。	・こどもへの支援方法、課題の設定など、組織を運営していくうえで、職員の意見を取り入れることを、必要に応じて検討していきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	15	・外部評価は行っていない。	・外部評価は実施していないが、センター内他部署（診療科、事務所、支援室等）からの助言や、必要に応じて意見交換を行っている。他部署とのやりとりを通じ、多角的に業務内容を見直し、改善していきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15	0	・月に一度の育成科研修で知識理解を深める機会がある。	・職場内の定期的な研修の機会はあるが、外部の研修にも参加し療育の質の向上に努めていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15	0	・センターのホームページに公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15	0	・発達チェック表をもとにアセスメントを行い、個別懇談で保護者の思いやニーズを聞き取り作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15	0	・保護者の思いや、こどもの支援に関わる職員の思いとすり合わせた上で計画を作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15	0	・職員間で個別支援計画を共有し、計画に沿って支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	0	・発達チェック表をもとに、こどもたちの発達状況を確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15	0	・児童発達支援ガイドラインに基づいた内容で計画を作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	0	・活動プログラムは、児童発達支援管理責任者及び担任で立案している。	・職員が意見を出し合うことで、こどもが達成感を得られ、満足できるような活動を今後も取り入れていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15	0	・クラス担任間で活動の振り返りや会議でプログラムの改善を行っている。 ・クラス担任間で話し合い、日々の活動検討を行っている。また、行事では主務者を中心にこども達の発達や状態を考慮して、活動内容を考えている。 ・職員が多いので、様々な角度から支援を考えることができる。 ・職員で話し合い、1～2か月間の活動を決めている。 ・活動内容はクラス担任で話し合っ決めていく。こどもの様子や興味、経験させたいことなどを考慮し決めている。 ・工夫はしているが、さらに向上できるかと思う。	・季節ならではの活動やこどもの興味に合わせた遊びや活動を取り入れるよう努めているが、固定されている場合も多い。新しい活動を取り入れていけるよう、研修等を通して一人一人のアイディアの幅を広げしていきたい。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	15	0	・製作を行う時に、小集団グループで行ったり、マンツーマンで行ったりして、こどもの姿に合わせて個別支援を行っている。	・こどもの発達段階を見極め個別支援計画を作成しているが、活動の場で上手く支援できていない時もあるため、常にこどもに合った支援ができるよう努めていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	0	・事前に打ち合わせを行い、支援内容や役割分担などを確認し、職員間で連携を図っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15	0	・毎日指導後に一日の流れ、活動内容について振り返りを行い、事前の役割分担や職員配置などについて気付いた点を共有し、改善につなげている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15	0	・クラス日誌や個別記録を記入し、支援の振り返りを行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0	・定期的に相談日を設けた事で、すべての保護者の方と計画を振り返る時間が確保でき、適切に見直しを行うことができた。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15	0	・児童発達支援管理責任者や担当職員が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15	0	・必要に応じて行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	・必要に応じて行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	・懇談会や書面のやり取りを実施し、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	14	1	・児童発達支援センター連絡協議会を通じて、研修や交流の機会を設けている。	・時間と人員の確保が可能であれば、施設間での見学の機会があってもよい。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	15	0	・県、市町村、一般団体主体の対面またはオンライン研修開催について周知し、職員の主体的な研修参加を促している。	・現役職員に関わらず、療育現場を経験した元職員などにも声をかけ、日常の現場での悩み、課題を共有し、相談できる場を設けたらよい。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	15	0	・発達支援室職員が高岡市地域共生推進協議会に参加している。	
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	14	1	・高岡市の公立保育園2園と交流保育を実施している。	・参加は希望制である。今後さらに多くのこどもたちが参加できるよう、保護者の方に対し、案内文等を用いて交流保育の意義を明確に伝えていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	0	・こどもたちがバスで通園しており、全ての保護者の方と毎日顔を合わせて話をする機会があるわけではないため、連絡帳や電話でこどもに関する情報共有を行えるよう工夫している。 ・連絡帳の他、個別懇談、電話懇談、家庭訪問等を通してこどもたちの発達や課題について保護者の方と共通理解を図っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	0	・年3回グループペアレントトレーニングを開催し、年度初めに保護者の方へ情報提供を行い参加を募っている。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	0	・ 契約時に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15	0	・ 児童発達支援管理責任者や担当者が、個別懇談を通してアセスメントを行い、優先すべき課題について、こどもや家族の意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	15	0	・ 児童発達支援管理者または担当者が、支援内容の説明を行い、保護者の同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15	0	・ 定期懇談の他、必要に応じて臨時で個別懇談の機会を設けて相談に対応している。 ・ 相談対応には担任のみならず、必要に応じて育成科長や担当相談支援専門員、訓練士にも意見を仰いで必要な助言や支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14	1	・ ふれあい学級では、家族、兄弟が参加出来る機会を提供している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	0	・ 保護者やこどもたちの状況から、必要性を感じた場合は、保護者からの申し出がなくても電話懇談や保護者懇談の場を設け、迅速な対応を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	15	0	・ お知らせなどは、電子データで届けることで、保護者の方が、速やかに内容を確認できるよう工夫している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	0	・ 個人情報に関する法律に基づいて適切に対応を行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15	0	・ 視覚ツールの活用など、保護者のニーズに合わせて対応している。 ・ お知らせ等は電子データで送付しているが、保護者の希望に合わせて紙媒体で配布するなど個別対応に応じている。また、外国籍の保護者の方については、必要に応じて電話で内容の確認や補足説明を行い、情報伝達が行き渡るよう工夫している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	15	0	・ ライオンズクラブとの交流を年2回行っている。 ・ センターの近隣住民を招待する機会は持っていないが、保護者家族やライオンズクラブなど、地域や外部の方とのふれあいの機会を設けている。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15	0	・ マニュアルや消防計画をもとに毎月訓練を実施している。訓練の実施内容については、クラスだより、連絡メールにより保護者に周知している。また、非常時に備えて緊急時引き渡し訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15	0	・ 業務継続計画を策定し、水害、地震を想定した避難訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14	1	・ 持病の把握に加え、発作が起きた場合を想定したシミュレーションを行っている。その際、てんかんの状態ごとに合わせた対応ができるよう、フローチャートを作成し活用している。	

非常時等の対応	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15	0	・主治医記載の生活管理表をもとに、保育士、看護師、調理員でアレルギー対応の内容確認を行い、対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15	0	・安全に支援を行うため、事故発生を想定したシミュレーションを実施している。また、消防職員から、心肺蘇生や誤飲対応に関する実施研修を受けている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14	1	・契約時や保護者会定例会で安全計画について周知している。取り組み内容については、クラスだよりに記載して家庭への啓蒙を図っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15	0	・ヒヤリハット事案が発生した場合、速やかに職員間で内容を共有し、対応策を検討して翌日からの支援に反映できるように工夫している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	0	・年に2回虐待防止セルフチェックを実施し職員が自身の適切な対応について振り返る機会を持っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14	1	・個別支援計画の説明を行う際に、身体拘束に関する説明もあわせて行っている。	